

—なし—

なし

—— 発病・加害時期  
 === 発病・加害最盛期

| 月       |   |   |   |   |   | 1 | 2 | 3 | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 作型・病害虫名 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 露地      |   |   |   |   |   |   |   |   | 開花 |    |    |    | 収穫 |    |    |    |    |
| 黒       |   | 星 |   |   | 病 |   |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| 赤       |   | 星 |   |   | 病 |   |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| 輪       |   | 紋 |   |   | 病 |   |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| カ       | イ | ガ | ラ | ム | シ | 類 |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| カ       |   | メ |   | ム | シ | 類 |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| ア       | ブ | ラ |   | ム | シ | 類 |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| ハ       | マ | キ |   | ム | シ | 類 |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| シ       | ン | ク | イ | ム | シ | 類 |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| ハ       |   | ダ |   | ニ | 類 |   |   |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |
| ニ       | セ | ナ | シ | サ | ビ | ダ | ニ |   | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— |

## 黒星病

### 留意事項

- 1 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。
- 2 QoI剤<<1 1>>、SDHI剤<<7>>は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

### 防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発芽前に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [石灰硫黄合剤](#) <—> 【7倍 発芽前／—】
- 4 4月上旬から下旬に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [デランフロアブル](#) [劇](#) <M 9> 【1000倍 60日／4回】
  - ・ [チオノックフロアブル](#) <M 3> 【500倍 30日／5回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【2000～3000倍 前日／4回】
  - ・ [パレード15フロアブル](#) <<7>> 【2000～3000倍 前日／2回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) <<1 1>> 【3000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [スコア顆粒水和剤](#) <3> 【2000～4000倍 14日／3回】
- 6 収穫後に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ICボルドー48Q](#) <M 1> 【30倍 収穫後～開花前／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 赤星病

### 留意事項

- 1 ビャクシン類が周囲に多いと発病が多い。
- 2 SDHI剤≪7≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 3 チオノックフロアブルは、かぶれに注意する。

### 防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 感染期（4月上～下旬）に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [デランフロアブル](#) 劇 <M9> 【1000倍 60日／4回】
  - ・ [チオノックフロアブル](#) <M3> 【500倍 30日／5回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [アンビルフロアブル](#) <3> 【1000～2000倍 7日／3回】
  - ・ [フルーツセイバー](#) ≪7≫ 【1500～3000倍 前日／3回】
  - ・ [パレード15フロアブル](#) ≪7≫ 【2000～3000倍 前日／2回】

## 輪紋病

### 留意事項

- 1 軟腐症状を伴う輪紋病斑を生じる。枝幹にはいぼを形成する。
- 2 落弁後から7月にかけて降雨が多いと多発する。
- 3 QoI剤≪11≫、SDHI剤≪7≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 せん定時にいぼ多発枝をせん除し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベルクート水和剤](#) <M7> 【1000～1500倍 14日／5回】
  - ・ [デランフロアブル](#) 劇 <M9> 【1000倍 60日／4回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベンレート水和剤](#) <1> 【2000～3000倍 前日／4回】
  - ・ [オンリーワンフロアブル](#) <3> 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) ≪11≫ 【3000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [パレード15フロアブル](#) ≪7≫ 【2000～3000倍 前日／2回】

## カイガラムシ類

### 留意事項

- 1 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

の間隔をおいて散布する。

- 2 アプロード水和剤は若齢幼虫発生期に散布する。
- 3 なるべく天敵への影響の少ない薬剤（アプロード水和剤）を散布する。

#### 防除方法

- 1 休眠期（12月～3月上旬）に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [機械油乳剤95](#) <UNM>  
【落葉果樹（なし、りんご、かき、もも） カイガラムシ 16～24倍 ー／ー】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7～10倍 発芽前／ー】
- 3 第1世代幼虫発生期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) [劇](#) <4 A> 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) <4 C> 【1000～2000倍 前日／3回】
  - ・ [アプロード水和剤](#) <1 6> 【カイガラムシ類幼虫 1000倍 30日／2回】

## カメムシ類

#### 留意事項

- 1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて早めに防除する。
- 2 ピレスロイド剤<3 A>を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

#### 防除方法

- 1 袋かけを行う。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [ダントツ水溶剤](#) <4 A> 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [テッパン液剤](#) <2 8> 【2000倍 前日／2回】

## アブラムシ類

#### 留意事項

- 1 発芽展葉期の防除に重点を置く。
- 2 ピレスロイド剤<3 A>を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

#### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000～3000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B > 【4000倍 前日／3回】
- ・ [トランスフォームフロアブル](#) < 4 C > 【2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000～4000倍 14日／2回】

## ハマキムシ類

### 留意事項

- 1 幼虫が果実の表面をなめるように食害したり、葉2～3枚を重ね合わせるほか、新梢の先端を巻いたり、綴る等の被害を出す。
- 2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000倍 前日／2回】
  - ・ [ディアナWDG](#) < 5 > 【5000～10000倍 前日／2回】
  - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) < 2 8 > 【4000倍 前日／2回】
  - ・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 < 1 B > 【日本なし 1000～1500倍 14日／6回】

## シンクイムシ類

### 留意事項

- 1 果実に食入するシンクイムシ類にはナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、ナシマダラメイガなどがある。
- 2 ピレスロイド剤< 3 A >を連用すると、ハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなる場合があるので注意する。

### 防除方法

- 1 被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) < 4 A > 【2000倍 前日／3回】
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A > 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【2000～3000倍 前日／2回】
  - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) < 2 8 > 【4000倍 前日／2回】
  - ・ [ダイアジノン水和剤34](#) 劇 < 1 B > 【日本なし 1000倍 14日／6回】

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 葉がかすり状になってからでは手遅れであるため、早期発見に努める。
- 2 マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも1ヶ月の

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

間隔をおいて散布する。

- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

#### 防除方法

- 1 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [機械油乳剤95](#) <UNM> 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) ハダニ類及びその越冬卵 16～24倍 ー／ー】
- 2 発芽前に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [石灰硫黄合剤](#) <UN> 【落葉果樹 7～40倍 発芽前／ー】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モベントフロアブル](#) <23> 【2000倍 14日／3回】
  - ・ [スターマイトフロアブル](#) <25A> 【2000倍 前日／1回】
  - ・ [マイトコーネフロアブル](#) <20D> 【1000～1500倍 前日／1回】
  - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【1000～1500倍 前日／1回】
  - ・ [ダニコングフロアブル](#) <25B> 【2000倍 前日／1回】

## ニセナシサビダニ

#### 防除方法

- 1 せん定枝は4月までにほ場外に持ち出し処分する。
- 2 休眠期(12月～3月上旬)に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [機械油乳剤95](#) <UNM> 【落葉果樹(なし、りんご、かき、もも) サビダニ 16～24倍 ー／ー】
- 3 発生の初期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コテツフロアブル](#) [劇](#) <13> 【2000～3000倍 前日／3回】
  - ・ [モベントフロアブル](#) <23> 【2000倍 14日／3回】
  - ・ [コロマイト乳剤](#) <6> 【1000倍 前日／1回】
  - ・ [カネマイトフロアブル](#) <20B> 【1000倍 前日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。